

放射線の利用と生体影響 第 195 委員会

第 2 分科会 医学利用分科会 2021 年度活動報告

1. 活動概略

今年度は第 3 分科会と合同でプロジェクト A「加速器による医療用 RI 製造」およびプロジェクト B「医療被曝のビッグデータ作成」を推進した。第 2・第 3 合同分科会を 4 回開催し、専門家による講演および議論し、情報収集・情報共有した。プロジェクト A については、内閣府原子力委員会医用等 RI 製造促進専門委員会への提言を準備した。プロジェクト B については、ビッグデータ作成のための協力を得るため、日本医学放射線学会会長、大阪大学大学院医学系研究科放射線医学講座富山憲幸教授、中村仁信名誉教授、量子科学技術研究開発機構など、各分野のキーパソン、グループと面談した。合同分科会の日時、講演内容については、第 3 分科会の活動報告に詳細が記載されている。

2. 内閣府原子力委員会医用等 RI 製造・利用専門部会への提言

第 195 委員会、第 2・第 3 合同分科会の活動と集積した知見、委員間の議論を基に内閣府原子力委員会医用等 RI 製造・利用専門部会（中村壮一、畑澤順が専門委員として参画）に「医療用テクネチウムの国内製造に関する提言」を行うことを決め、準備を行った。製造方法や供給方式によるコスト見積もりを詳細に行い、原子力委員会のアクションプラン作成に際して根拠となる資料を準備した。

（捕捉）

2022 年 4 月の内閣府原子力委員会医用等 RI 製造・利用専門部会に、第 195 委員会の中村壮一委員（原子力委員会専門委員）から本提言を提出し、専門委員会資料として採用された。2022 年 5 月 31 日原子力委員会で「医用等 RI 製造促進アクションプラン」が決定された。原子炉製造グループ（国立研究開発法人日本原子力研究開発機構、公益社団法人日本アイソトープ協会、一般社団法人日本放射性医薬品協会、企業）および加速器製造グループ（短寿命放射性核種供給プラットホーム参画機関、公益社団法人日本アイソトープ協会、企業）が中心となり、RI の原子炉製造および加速器製造の最適な組み合わせを探るための打ち合わせが始まっている。両グループとも本委員会の提言と資料に基づいて、臨床利用に最適な製造法とコスト評価を行っている。

3. 国際原子力機関（IAEA）特別講演会の企画と運営

2022 年 5 月に IAEA のラファエル・グロッシ事務局長来日の機会に、IAEA の“Rays of Hope”（すべての人に放射線医療を）イニシアティブに関する特別講演会を企画し、運営した。主催は、公益社団法人日本医学放射線学会、公益社団法人日本放射線腫瘍学会、一般社団法人日本核医学会、共催は、一般社団法人日本原子力産業協会、公益財団法人医用原子力技術研究振興財団、一般社団法人アジアオセアニア核医学会。第 195 委員会委員に広報し、

産業界委員が所属する 6 企業が出席した。中低所得国では国内に 1 台の放射線照射装置もない場合があり、放射線管理・規制、法規、放射線治療装置の設置、人材育成を含め、ゼロから支援する国際的枠組みの構築が始まることが発表された。IAEA ホームページで Tokyo Event として広報された。

文責 第 2 分科会 委員長 畑澤 順